

■医療センター完成式

来年1月に502床の病院として開院する社会医療法人厚生会の中部国際医療センター（美濃加茂市）で18日、約170人が出席して完成式があった。地域医療に根ざしながらも、先進がん治療に取り組み、国際的に開かれた高度医療を目指す。

木沢記念病院（同市古井町、452床）を移転新築し、併せて病院名を変更した。「がん治療の中心地」を掲げて治療にあたり、ホウ素薬剤を取り込んだがん細胞だけを壊す治療などに取り組む。最先端の放射線医療機器を多数導入。陽子線治療で日本初の医療機器を駆使する「陽子線がん治療センター」を2023年に開設する。

厚生会の山田実紘（じつひろ）理事長は「今後は、空飛ぶタクシーで、中部国際空港から短時間で来院でき、外国からも患者が来る時代になる。この高度な治療を、地域の方にも利用してほしい。救急医療にも取り組みたい」と抱負を語った。

中部国際医療センター完成

がん治療、救急医療拠点に



来月1日に開院する中部国際医療センター。美濃加茂市で

来月1日開院

社会医療法人「厚生会」（美濃加茂市）が市内で整備を進めてきた「中部国際医療センター」が完成し、十八日、現地で竣工式が開かれた。先端のがん治療や救急医療の拠点として来月一日に開院する。

手狭になっていた木沢記念病院（同市）を、市街地に近い高台に移転新設。病床数は五十増えて五百二となり、県内の民間病院では最大規模となる。手術室は四室増の十一室とする。

がん治療では、県内では二台目となる放射線治療装置を導入。また、患者への負担が少ない陽子線がん治療で、日本初となる最先端機器の運用を二〇二三年から始める。遺伝子情報を治療に役立てる「がんゲノム（全遺伝情報）医療」にもさらに力を入れる。

救急治療室は一度に六人まで診られ、珍しいという救急専用のコンピューター断層撮影（CT）室も設置。可茂地区の医療機関では初となる屋上ヘリポートも設け、救急受け入れ体制を強化した。

中部国際空港からの好アクセスを生かし、外国人患者の受け入れも想定する。建物は十階建てで延べ約六万平方メートル。竣工式には関係者百七十人が出席。山田実紘理事長はあいさつで「地域の人が高度な医療を利用でき、安心して暮らせるよう力を合わせて頑張っていきたい」と述べた。

現在の木沢記念病院は来月から「中部脳リハビリテーション病院」に改称。新型コロナウイルスの臨時医療施設や宿泊療養施設としても活用される。

（渡辺大地）